

九州子ども狂言

肥前島原子ども狂言ワークショップ

交流舞台 in 島原

響きあう伝統・はぐくむ未来

肥前島原子ども狂言

長崎・島原市

伝統文化狂言教室

福岡・飯塚市

山鹿八千代座狂言教室

熊本・山鹿市

九州各地の教室で狂言を学び活動する子ども達が島原城薪能の舞台で共に繰り広げる交流舞台。和泉流狂言方 野村万禄さんの指導のもと、日本の伝統文化である狂言の素晴らしさや楽しさを学ぶ子ども達が、共に集い、九州から能楽の魅力を発信します。

令和7年

10月4日(土)

入場無料

午後3時 開演

(午後2時30分開場) 午後4時 終演

島原城天守閣前広場

(雨天時・島原文化会館)



出演団体：山鹿八千代座狂言教室(熊本県山鹿市)
肥前島原子ども狂言(長崎県島原市)
伝統文化狂言教室(福岡県飯塚市)

講師・出演 和泉流狂言方 野村万禄

主催：島原市教育委員会／協力：島原城薪能振興会・肥前島原子ども狂言協力会
お問合せ：島原市教育委員会 生涯学習課 TEL 0957-68-5473



詳しくはコチラ

九州子ども狂言

交流舞台 in 島原



令和7年 10月4日(土) 午後3時開演
会場 島原城天守閣前広場

番組

小舞 鶴亀の舞

小舞 野村万禄
飯塚・伝統文化狂言教室
山鹿八千代座狂言教室
肥前島原子ども狂言

小舞 柳の下

小舞 飯塚・伝統文化狂言教室
山鹿八千代座狂言教室
肥前島原子ども狂言

小舞 兎

小舞 飯塚・伝統文化狂言教室
山鹿八千代座狂言教室
肥前島原子ども狂言

狂言 魚説法

山鹿八千代座狂言教室
肥前島原子ども狂言

狂言 盆山

山鹿八千代座狂言教室
肥前島原子ども狂言

狂言 附子

飯塚・伝統文化狂言教室



和泉流狂言



魚説法

住職の留守中に説法を頼まれた新発意ですが、まだ経文を覚えておらず困ります。そこで幼い頃に親しんだ魚の名前を連ねて談義のように聞いて聞かせようと思います。
さて、いくつかの魚が登場してくるのでしょうか？お楽しみください。

しびり

太郎冠者は主人から酒の肴を買って来いと命じられます。しかし、遠くに出かけるのが面倒だと思った太郎冠者は、仮病を思いつきます。主人はすぐに太郎冠者の仮病を見抜いてしまいます。いったいどんな仮病でしょうか？

盆山

世間では盆山(日本庭園のミニチュア版)を集めるのが流行っていました。その盆山を欲しい男が知り合いの大金持ちの家に盗みに入ります。しかし、庭が垣根で囲われていて進入出来ません。そこで男は、『のこぎり』を使い垣根を破り盆山を物色します。するとその物音に気付いた家の主人が見てみると盗人は顔見知りの男でした。そこで主人は男をからかうことにして、色々な動物の鳴き真似をさせます…。いったいどんな動物が登場してくるのでしょうか。効果音や動物の鳴き声を演者の声だけで表現するところが見所です。

附子

主人は、留守の間に大切な砂糖を食べられないよう召し使いの太郎冠者と次郎冠者を呼び出し、これは猛毒の附子といって、附子の方から吹いてくる風に当たっただけで死んでしまうのだと嘘をついて出掛けます。残された二人はその附子はどうしても見なくなり、附子のほうから吹く風に当たらぬよう、扇であおぎながら近付き蓋を取ってみると、中には何やら黒い塊があります。太郎冠者がそれを食べてみると、何と砂糖でした。(黒砂糖で水あめのような状態です)二人は砂糖を残らず全部食べてしまい、主人への言い訳を考えます。さてどのような言い訳を思いついたのでしょうか……。



主催…(一財)山鹿市地域振興公社

山鹿八千代座 狂言教室
(熊本県 山鹿市)

狂言を学ぶ友の会 (福岡県 飯塚市)
福岡県飯塚市で平成21年に設立。
二世 野村万禄先生を講師にお招きして、文化庁の委託事業として、「子ども狂言教室」(伝統文化狂言教室)を開催しています。
幼児さんから中学生まで、毎年10~15名の参加者やその保護者と一緒に、楽しくお稽古しています。設立より17年目をむかえます。

【交流団体プロフィール】

肥前 島原 子ども狂言

第43回島原城新能

第一部しまばら狂言

新作！創作狂言

「山の三太郎」を

初披露！



・島原狂言「山の三太郎」

・島原狂言「釣ろうよ」

・狂言小舞「兎」

・和泉流狂言「しびり」

・和泉流狂言「魚説法」

・狂言小舞「柳の下」

・狂言小舞「鶴亀の舞」



島原狂言「釣ろうよ」



第43回 島原城新能

第1部しまばら狂言 肥前島原子ども狂言

第2部 島原城新能・神事 火入れの儀

・宝生流舞囃子「放下僧」小林与志郎

・和泉流狂言「萩大名」野村万禄

・宝生流能「葵上」

宝生流20代宗家 宝生和英

令和7年

10月4日(土)

入場無料

午後5時 開演

(午後4時30分開場)

島原城天守閣前広場

(雨天時・島原文化会館)

◎肥前島原子ども狂言

お問合せ：島原市教育委員会生涯学習課 TEL 0957-68-5473

◎島原城新能振興会

島原市高島 2-7217 島原商工会議所内 TEL 0957-62-2101

お問合せ：事務局 TEL 0957-62-2111 FAX 0957-64-3783



島原城新能HP

第43回 島原城薪能 第一部 しまばら狂言

肥前島原 子ども狂言

令和7年 10月4日(土) 午後5時開演
会場 島原城天守閣前広場

城下町島原・

能楽の歴史を
次世代へ繋ぐ

小 謡 鶴亀の舞

小 舞 柳の下

狂 言 魚説法

狂 言 しびり

島原狂言 釣ろうよ

小 舞 兎

島原狂言 山の三太郎

城下町・島原。約400年前の島原城築城のお祝いに、松倉重政藩主は人々を招いて、能を催したと記録にあります。その後の初代松平忠房藩主をはじめとする島原藩松平家の歴代藩主は、自ら舞うほど能・狂言を愛好し、また広く領民にも能楽の文化が広がりました。松平文庫に残されている藩日記や、御文庫に伝えられる能本や狂言本からも盛んだった島原能楽がしのべれます。

この島原における能楽の歴史を継承するために、昭和58年に島原城薪能(たきぎのう)が復活。また次世代の子どもたちに伝承するために平成16年に肥前島原子ども狂言がはじまりました。

山の新作! 山の三太郎

昔から庶民により島原半島で語り継がれてきた民話「山の三太郎」を原案に、島原オリジナルの狂言として和泉流狂言方 野村万禄氏の監修と演出による新作狂言を19年ぶりに創作しました。また新たな試みとして、音楽家の野村誠氏によるオリジナルの創作音楽も狂言の世界を彩ります。

むかし帯山と呼ばれ、噴火が絶えなかった雲仙岳。そこには肥前の山々を守る、高来津久良という山の神さまがいらっしゃいました。そこに、人間になりたい急げ者の三匹のカッパ「妙見太郎」「風見太郎」「国見太郎」も住んでいて、三匹合わせて「山の三太郎」と呼ばれていました。山の神は三匹のカッパたちに、人間になりたかったら、山々の様子を見張っているようにと言って雲の上から様子を見ることにしました。

「妙見太郎」は天見役として一日中空を見上げ空の様子を見ていました。「風見太郎」は一日中風の音を聞いて、また「国見太郎」は一日中、地面を掘って地震の番をしていました。でもそのうちに三匹のカッパたちは仕事が退屈になってきてしまい、名水の里である島原のおいしい地酒があることを思い出します。さて「山の三太郎」たちはどうするのでしょうか。

「島原半島ユネスコ世界ジオパーク」の魅力を詰め込んだ狂言の世界をお楽しみください。

【音楽】野村 誠(プロフィール)

人々との交流から音楽を創作する作曲家。雲仙ジオパーク会議では、Hugh Nankivellとともにワークショップを行い《火山って何?》などの歌を創作。作曲作品は30カ国以上で上演され、45の都道府県で演奏やワークショップを行う。『第1回アサヒビール芸術賞』受賞。著書に『音楽の未来を作曲する』(晶文社)ほか。現在熊本県在住で肥後琵琶をリサーチ中。

島原狂言

昔から庶民により島原で語り継がれてきた狂言を原案に、島原のオリジナルの狂言として、元島原城資料解説員の故松尾卓次氏による脚本と和泉流狂言方 野村万禄氏の演出により平成18年に創作されました。

鯛は、淡紅色で、姿が美しく、また「めでたい」に通じるところから、縁起のよい魚とされ、祝膳に尾頭付きで用いられる魚です。島原の九十九島沖はいい漁場で、鯛、がんば(フグ)など多くの魚がとれます。

目出度い鯛を釣りに行った太郎冠者は何を釣ってくるのでしょうか。

今年は、長崎で初めて開催される国民文化祭「ながさきピース文化祭2025」の開催をお祝いし、城下町島原の歴史と文化の継承の象徴である島原城薪能と肥前島原子ども狂言とともに、城下町島原のさらなる発展を祈念する「鯛釣り」です。

講師 野村万禄 (和泉流狂言方)

一九六六年東京に生まれる。故・野村万禄(芸術院会員・人間国宝)の孫。伯父の初世野村萬(人間国宝)に師事。

一九九〇年東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻卒業。二〇〇〇年二世野村万禄襲名。野村万蔵家の別家を興す。現在福岡在住。国内外において数多く、九州各地に稽古場を開設。一般にも広く門戸を開き狂言の普及と発展に努めている。また、クラシックアンサンブルやピアノとの共演など幅広く活躍中。二〇〇四年よりこれまで二十二年間にわたり、「肥前島原子ども狂言ワークショップ」の講師を務める。

公益社団法人能楽協会本部理事 九州支部長。重要無形文化財総合指定保持者。平成二十二年福岡県文化賞(奨励部門)受賞。

肥前島原子ども狂言 (長崎県島原市)

平成16年に発足。今年22年目をむかえます。江戸時代より島原に能と共に伝わった狂言を体験しながら、城下町・島原ならではの歴史や文化を学び伝承していくために、和泉流狂言方 野村万禄さんの指導のもと、島原城を背景にした島原城薪能の舞台での発表を目標に、毎年稽古を重ねています。

平成18年にはオリジナルの島原狂言「釣ろうよ」を創作し発表。長年ご当地狂言として、親しまれています。今年とは十九年ぶりに新作狂言として「山の三太郎」を発表します。二〇二六年三月「島原半島文化賞」を受賞。二〇二〇年六月「長崎県地域文化章」を受賞。

